

福岡県指定無形民俗文化財



あさひ ざ にんぎょう し ば い

旭座人形芝居本公演

2023 年 11 月 3 日(祝) 13:30 開演

観覧無料

公演外題

「寿式三番叟」

旭座人形芝居保存会

「傾城阿波鳴門」巡礼歌の段

黒木小学校人形浄瑠璃クラブ

「御所桜堀川夜討」弁慶上使の段

旭座人形芝居保存会

※演目の終了後におたのしみ抽選会をおこないます

後 援 八女市・八女市教育委員会

会 場 旭座人形芝居会館

福岡県八女市黒木町笠原5005-2

問合せ先 八女市役所 文化振興課

TEL 0943-23-1982(直通)

旭座人形芝居保存会について

旭座の起源は、1872(明治5)年ごろ、かさばら笠原地区のわにばち鰐八集落に浄瑠璃の名人が現れ、祝いの座でひょうたんや徳利を人形に見立てて操ったことに由来します。

以後、九州内の三座からかしら首を譲り受けて芸題を増やし、農閑期には八女茶のPRを兼ねて興業にまわりました。

1907(明治40)年に旭日に大鷹をあしらった引幕の寄贈を受け、地名に由来した「鰐八座」から「旭座」と呼ばれるようになりました。1955(昭和30)年に福岡県無形民俗文化財に指定されたことを機に保存会を結成し、継承活動に取り組んでいます。



ことぶきしききんばそう
「寿式三番叟」
 旭座人形芝居保存会

能の「翁」を人形浄瑠璃に取り入れ、景事物として上演する儀式的舞が「寿式三番叟」です。旭座では、お米や

お茶などの収穫に対する五穀豊穡と、息災延命を願い、毎年1月20日の「初光り」と、7月15日の「翁渡し」による「座渡し神事」が継承されています。

右手に神鈴、左手に扇子を持ち、^{ひきまき}杵杵きをイメージした躍動感あふれる動きで四方を清めます。黄金の稲穂が垂れるよう篩から次々と杵を蒔きながら、くまなく舞台を駆け回り、皆様のご健勝とご多幸を祈念します。



けいせいあわのなるとじゆんれいうた
「傾城阿波鳴門」巡礼歌の段
 八女市立黒木小学校人形浄瑠璃クラブ

阿波の国・徳島藩で、名刀・国次が何者かに奪われる事件が起きる。藩士・十郎兵衛は、この刀を取り戻すため、盗賊銀十郎として、女房のお弓とともに浪速に住んでいた。その上、夫の十郎兵衛は、今日中に五十両の金子を用立てなければならない事情にあった。

ちょうど、金策で夫が留守のところへ、巡礼姿のかわいらしい女の子がご報酬に訪れる。お弓が身の上を聞くと、国は阿波の徳島、父の名は十郎兵衛、母はお弓と答えた。それは紛れもないわが娘、お鶴だったのだ。

お弓は娘に災いが及ぶことをおそれ、母と名乗りたい気持ちをぐっとこらえるが、お鶴は「小さい時に別れて親の顔もはっきりと覚えがなく、よその子たちのように、母さんに髪を結ってもらいたい」と泣き出してしまふ。お弓も涙をこぼしながら、お鶴の身を案じ、徳島へ帰るように諭す。

そんなお弓に、「あなたが母さんのように思えてきました。何でもしますからここに置いてください」とお鶴は懇願するが、置いてやることはできない。お弓が帰りの旅費を渡そうとすると、お鶴は小判をもっているので心配ないと告げる。わが娘のいじらしさに打たれ、自分の^{かんざし}簪で髪を結び直し、泣く泣くお鶴を送りだしたお弓。しかし、このままでは二度と会えないと、連れ戻す決心をしてお鶴の後を追いかけていくのだった。



ごしょさくらがわのりかわようち せんげいじようし だん
「御所桜堀川夜討」弁慶上使の段
 旭座人形芝居保存会

「御所桜堀川夜討」

文耕堂・三好松洛合作の時代物で、1737年の大阪・竹本座が初演です。全5段構成で、源平合戦ののち、源頼朝・義経が不和に陥ったところを描き、三段目の「弁慶上使の段」が最も有名です。

「弁慶上使の段」あらすじ

鎌倉からは、義経の身の潔白を示すために妻である^{きやう}卿の君（平時忠の娘）の首を差し出せ、と要求される。弁慶は上使として卿の君を預かる侍従太郎の館へやってきた。相談の末、侍従太郎と花の井夫婦は年恰好のよく似た腰元の^{しのぶ}信夫に、卿の君の身代わりを頼む。信夫は受け入れるが、居合わせていた信夫の母おわさは承知をしない。

おわさは十八年前、稚児姿の少年と一夜の契りを結んだ。少年は逃げてしまうが、とっさに衣の袖を掴み、おわさの元には紅の衣の左袖だけが残った。この袖を頼りに名も知らぬ父親に会うまでは、娘を死なせるわけにはいかないのだ、とおわさは語った。すべてを室外から聞いていた弁慶は、障子の隙間から信夫を突き刺した。

（公演ここから）あらわれた弁慶をおわさは泣いて責め立てるが、弁慶は上着を脱ぐと左袖がない紅い衣を見せた。十八年前のあの時の稚児は弁慶だったのだ。おわさは信夫を抱き起し、弁慶が父親だったと伝えるが、信夫はもう目も見えず耳も聞こえない。身寄りのなくなる母を心配して侍従太郎夫婦にあとを頼み、母には父とめぐり合って仲良く暮らしてほしいと言いついて事切れた。おわさは娘の遺骸を抱き上げて、父とわからずに刺し殺された境遇を泣き悲しんだ。弁慶ははじめて娘の存在を知ったが、顔を合わせては身代わりに殺すことに未練が残ると思い、顔も見ずに殺したのだと語る。生まれたときの産声以来泣いたことのなかった弁慶は、この時はじめて涙を流したのだった。

刻限が近づき、侍従太郎は信夫の首を落とすと、その刀を自分の腹に突き立てた。自分の首を添えることで、卿の君の首が偽物ではないと思わせるためだった。弁慶は二人の首を両脇に抱え、取りすぎる花の井とおわさを振り捨て、堀川御所へかえって行くのだった。

キリトリ線

旭座人形芝居本公演 おたのしみ抽選会	
- ご来場の方には演目の終了後、おたのしみ抽選会をおこないます。 - 応募できるのは公演当日の会場内のみです。 - 氏名を記入の上、演目が終了するまでの間に、会場内に設置した応募箱に投かんして下さい。（必ず、ふりがなを記入して下さい） - 応募はお一人につき一枚までとなります。複数枚応募されても、2枚目以降は無効となります。 - 抽選時点で会場内にいらっしゃらない場合、当選は無効となります。	

応募券	
(ふりがな)	
(姓)	(名)